

障がい福祉分野のロボット等導入支援事業を活用し

非接触型眠り解析センサー「Mエム-Sleepスリープ」を
どんまいホームみかんの利用者居室ベッドに導入しました。

導入のきっかけ

- ① 夜間睡眠時などコール以外は定時巡回を行っていたが今まで発作のなかった利用者が突然チアノーゼの出ている状態でベッドで苦しんでいた状況に遭遇し、コールボタンを押せる方でも発作となると突然の事にボタンを押す事も難しく定時巡回のみでは急変時対応が遅れる心配から頻回の巡回に切り替えたが聴覚過敏で夜間ぐっすり眠ることを阻害してしまい睡眠不足による影響も日中活動の場に出るなど改善する必要があった。
- ② 重度の身体障害をお持ちの方で夜間睡眠が深くなるにつれて呼吸が浅くなる呼吸の問題や嚥下機能の低下など呼吸問題や窒息なども日常的に不安を感じながら支援をしている状況であった。

導入で期待すること

自ら体調の急変等をコールで呼ぶことが難しい重度の障害をお持ちの方の居室のベッドのマット下に設置し①心拍・呼吸など設定値を逸脱した際アラートが鳴ることで急変に対応したい。②夜間の体調変化にも早く気づき対応できるようになることで少しでも利用者さんのしんどい時間を短くしたい。③複数の利用者の状況をモニターで確認できることで unnecessaryな巡回を減らすことができ安眠妨害を減らしたい。利用者も職員もすぐに気づけることで夜間の不安を減らしたい。また睡眠状態やベッドからの起き上がりを検知してくれるので布団のかけなおしなど気にかけてたりできる。睡眠状態・生活状況のデータを蓄積、推移を知り体調管理につなげたい。

導入写真





導入後

重度の障害をお持ちの方は呼吸疾患をお持ちの方も多く、もとより SpO2 の値が低い為アラート発動する機会がとて多くアラート発動時居室へ走るが熟睡して呼吸が浅くなり窒息とまではいかず体位変換や気道確保等することですぐに正常の呼吸に戻る為迅速に対応が出来るようになったが、定時巡回以外でアラート発動によって部屋へ走る回数はとても多いがピンポイントでの巡回ができ、常時見守りでそばにいるわけではない為今まで眠っている間のしんどさに気付かずだったがセンサーを導入したことで数値化され平常時と異常時の判断も付きやすくなったのではないかと感じている。またセンサー導入前職員は何か急変していたりしないかと不安を感じていたが少し軽減しているのではなかろうか。ただ導入後の不具合でいうと寝返りをうったりマットとの設置面が少なくなるとバイタルが拾えなくなり離床アラートが鳴ったり不随運動などで常に体動のある方は安定した数値が拾うことが出来ない事も職員間で情報共有しセンサーに頼りすぎずヒューマンエラー対策の一つとしてとらえるようにしている。

今後の課題 使用期間が一定を過ぎデータも蓄積されてきている為アラートの設定を個別に変更したり、寝返りなど多い日は深く眠れていない可能性があることも分かるようになり、翌日の支援に体調を気に掛けるなどきっかけとなり今後もデータの解析などにも尽力し健康管理に役立てていきたい。